

日本比較文化学会

2004年1月 No. 27

# JACC 比較文化会報

本部事務局：〒036-8231 弘前市稔町13-1 弘前学院大学 英米文学  
佐藤研究室 Tel.0172-34-5211 内線 216 sato@hiroga-u.ac.jp

## 日本比較文化学会第26回大会ご案内

古都弘前にどうぞ

斧田好雄（弘前学院大学）

日本比較文化学会第26回大会は2004年6月12日（土）弘前文化センターで開催されることになりました。会員みなさんのご出席を心からお待ちしております。

開催地となる弘前市は津軽統一に成功した藩祖津軽為信、二代目信枚により新城を完成（1611）、城市を整備したことが発祥とされています。以来津軽藩10万石の城下町として発達してきた弘前市は、約17万5千人の人口を有し、津軽地方の中心都市として現在に至っています。美しい自然に恵まれた広大な津軽平野には、米とりんごが実り、数多くの歴史的文化遺産を街の随所で見ることが出来ます。静かなたたずまいの中に弘前大学、弘前学院大学などの教育施設があり、学都としての面目を保っています。また弘前には、春は「さくらまつり」、夏は「ねぶたまつり」、秋は「紅葉と菊まつり」、冬には「雪燈籠まつり」と、四季折々に風情あふれるまつりがあります。

学会会場のすぐそばに、弘前のシンボル弘前城天守閣が聳え立つ弘前公園があります。

弘前公園の広さはおよそ49haで、2,600本余りの桜が園内を埋め尽くし、開花期には古城の白壁と老松の緑とが見事なコントラストを見せています。築城形態の全貌を遺す城跡が保存されているのは、全国でも類例が少ないことから、天守閣、櫓、城門などの建造物のほとんどが国の重要文化財に指定され、保存されています。また園内には四季折々の草木が楽しめる弘前城植物園や津軽藩政時代を中心とした歴史資料、美術工芸資料などを展示した弘前市立博物館などがあります。

公園の南に隣接する藤田記念庭園は、日本商工会議所初代会頭藤田謙一氏の別邸の跡地を開園したもので、東京の古河庭園、五島美術館庭園などに類似した名園といわれています。公園の北には今も武家屋敷や商家が残っており、200年前の町並みをめぐることができます。西南には三十三ものお寺が立ち並ぶ禅林街もあります。また一歩足をのばせば秀峰岩木山やいで湯の温泉郷も楽しめますし、さらに一足のぼすと6月の十和田湖も素晴らしいです。東北新幹線の八戸開通により少しは便利になりました。

今回のシンポジュームのテーマは「多文化交流の問題点」です。急速なグローバル化が進み、異文化が交錯する中で、その功罪がしばしば論議されます。当地でも太宰治、葛西善蔵、石坂洋次郎、本田庸一、棟方志功など数々の津軽ゆかりの逸材を輩出しました。彼らが多文化に接したとき、そこから何を学び、どのような刺激を受け、またどのように苦闘したのか、吟味するのも興味のあるところです。

どうぞシンポジュームや研究発表に奮ってご参加下さい。どうぞ「お城とさくらとりんごの街」にお越し下さい。お待ちしております。（学会 監事）

## 第26回大会案内

### 実行委員会からのお知らせ

第26回日本比較文化学会大会は1日の日程で下記の通り、2004年6月12日(土)弘前文化センターにて、役員会、シンポジウム、研究発表等を開催する運びとなりました。シンポジウムに、研究発表に今回もまた奮ってご参加くださいますようお願い致します。

大会開催日 2004年6月12日(土) 役員会は同日の土曜日の予定ですので、ご留意下さい。

大会会場 弘前文化センター 〒036-8356 弘前市下白銀町19-4

電話:0172-33-6571~2 ファックス:0172-33-6570

JR弘前駅から徒歩20分、バス10分 車5分

問合せ 大会実行委員会事務局 弘前大学人文学部佐藤憲和研究室 〒036-8560 弘前市文京町1

電話:0172-39-3958(直通) 0172-36-2111(弘前大学代表)

ファックス:0172-39-3958 (直通)0172-32-5340(人文学部代表)

### 研究発表希望者へ

1. レジュメをワープロなどで、B5版横書き1枚にまとめて下さい。その際、左右の余白を2センチほど残して下さい。
2. 2003年2月28日必着で上記佐藤憲和宛に郵便書留で送って下さい。

### シンポジウム講師の推薦

次年度第26回大会のシンポジウムのテーマは「多文化交流の問題点」に決定しております。各支部は12月31日までに講師を推薦して下さい。推薦された講師は上記研究発表1および2の要領で、佐藤憲和宛でレジュメをお送り下さい。なお、シンポジウムの司会者は太田敬雄に内定しております。

### 九州支部報告(南川啓一)

支部総会と支部研究会を11月9日に福岡市内の中村学園大学で開催しました。映画英語教育学会と共催で、午前中に映画英語教育学会九州支部の研究会、午後日本比較文化学会九州支部研究会という順で開催しました。支部総会では梅田支部長の支部長退任と来年度からの新支部長に市川副支部長の就任が報告・承認されました。梅田支部長には来年度以降も支部顧問として支部の運営にかかわって頂くことも了承されました。支部研究会では次の研究発表が行われました。

- ① 地域の実態に応じた国際理解教育の実践～外国語教育と異文化間コミュニケーションの係わり～…  
長崎ウエスレヤン大学・山崎祐一
  - ② 対話を重視する英国の教育システム～スピーチ、ディベート、ディスカッション～…  
中村学園大学大学部・中谷安男  
司会者:西南女学院大学・八尋春海
  - ③ 『日本語教授書』の書誌学的研究…久留米大学大学院生・林弘仁
  - ④ 「満州」に於ける日本語教育…久留米大学大学院生・何淑霞一初等日本語読本の語彙教育を中心に…  
司会者:福岡女学院大学・南川啓一
- 終了後には、恒例の懇親会で会員の親睦を深めました。中には比較文化的酌量を深めた会員もいました!

### 関西支部報告(玉井史絵)

第25回日本比較文化学会全国大会の理事会ならびに総会において、前支部長石黒昭博先生が徳島文理大学に転出されたのに伴い、以下の関西支部の新役員体制が承認された。

支部長：山内信幸（同志社大学・新任） 副支部長：南井正廣（同志社大学・重任）  
源馬英人（同志社大学・新任） 北林利治（京都橘女子大学・新任）  
会計：玉井史絵（同志社大学・新任）

#### 10月例会

時：2003年10月25日 14:00～17:00

場所：同志社大学今出川キャンパス寧静館5階503教室

##### 1. 研究発表

林 奈美子（大谷大学） 「現代女性像の起源と受容：ウォートンのアメリカ、日本のウォートン」  
五幣久恵（敦賀女子短期大学） 「コンダクトブックと女性教育」

##### 2. 講演

山田眞實（同志社大学） 『『デザイン』という視点』

#### 12月例会

時：2003年12月13日 14:30～17:00

場所：同志社大学今出川キャンパス至誠館3階34番教室

##### 1. 研究発表

山路 順子（同志社大学） 'Language Policies: English and Multilingualism'  
玉井 久始（関西外国語大学） 「第二の改宗：グリーンのアフリカ旅行」

##### 2. 講演

岡見 弘道（大阪成蹊短期大学助教授／京都市中京区裏寺町 稱名寺[しょうみよじ]住職）  
「地域活動から見た京都市中京区の文化の多様性～繁華街を中心に～」

### 南東北支部報告（菊地弘）

今度、前任者の鈴木瑠璃子先生に代わって、私、菊地弘が当学会の南東北支部長と学会誌『比較文化研究』62号の編集を担当することになりました。よろしくお願ひ致します。62号につきましては、この記事を書いている段階で第1回の校正が終わったところです。なにぶん不慣れな仕事なので、投稿者に迷惑をかけるかもしれません。ご教示方、切にお願ひする次第です。

今回も、12名の方から計13本の原稿が寄せられ、この学会の活発な活動を窺わせるに十分なものがあります。完成をご期待願ひます。また、学会本部事務局のしっかりしたバック・アップにも、驚くとともに深く感謝申し上げる次第です。

#### 《本部事務局だより》

##### 1. 入会希望者へ

本学会に入会を希望する方は、本部事務局へ「入会申込書」を提出して下さい。折り返し必要書類をお送り致します。入会申込書は本部事務局に備えてあります。

##### 2. 論文掲載希望者へ

学会誌『比較文化研究』は年に4回発行しております。掲載をご希望の方は下記へお問い合わせ下さい。ただしレフリー制を採用し、掲載費用および別刷りは著者負担となります。本冊10部までは無料です。

（3月末日締切）〒854-0081 諫早市栄田町1057 長崎ウェスレヤン大学内  
日本比較文化学会九州支部 電話 0957-26-1234

（6月末日締切）〒370-0068 高崎市昭和町53 新島学園女子短期大学内  
日本比較文化学会関東支部 電話 0273-26-1155

（9月末日締切）

〒981-3105 仙台市泉区天神沢2-1-1 東北学院大学教養学部菊地弘研究室  
日本比較文化学会南東北支部 電話 022-773-3338  
E-mail [hKikuchii@izcc.tohoku-gakuin.ac.jp](mailto:hKikuchii@izcc.tohoku-gakuin.ac.jp)

(12月末日締切)

〒602-0033 京都府京田辺市多々羅都谷1-3  
同志社大学言語文化教育研究センター山内信幸研究室 日本比較文化学会関西支部  
電話 0774-65-7070

3. 近況報告、支部活動報告、研究部会報告、新刊紹介などを『比較文化会報』に投稿希望の方は次の要領でご応募下さい。

- (1) 近況報告 (130字以内)
- (2) 新刊書、編註書の紹介 (130字以内)
- (3) エッセイ投稿 (500字以内)
- (4) 支部報告、研究部会報告 (1000字以内)

投稿締切日 毎年6月30日(第1回締切日、編集、中澤)および毎年11月30日

(第2回締切日、編集、成沢) 投稿先 日本比較文化学会

〒036-8577 弘前市稔町13-1

弘前学院大学文学部佐藤研究室

電話 0172-34-5211 (代) E-mail [satoh@hirogaku-u.ac.jp](mailto:satoh@hirogaku-u.ac.jp)

日本比較文化学会 佐藤幸正

E-mail Address: [satoh@hirogaku-u.ac.jp](mailto:satoh@hirogaku-u.ac.jp)

Tel: 0172-34-5211 ex 216 / 0172-34-5212・216(direct)

Fax: 0172-32-8768

#### <編集後記>

◆新しい年を迎えました。会報27号をどうにか皆様の手元に届けることが出来ました。原稿を快くお送り下さいました皆様に心から感謝申し上げます。

新年になると不思議と新たな気持ち自然と湧きあがってきます。今年こそは、昨年よりもいい年に成りますように。この地上にも私たちの心にも平和が来ますように。おそらく昔の人も毎年同じ想いで新たな気持ちで新年を厳守に迎えたことでしょう。しかし、その実現への道が容易ではないことが今日ほど痛切に感じさせられることはありません。文化、言語、宗教、人種を越えることが出来ることを示すのがこの学会のつとめでしょう。大会での再会を今から楽しみにしています。

(成沢 義雄)

◆ 会報の原稿は既に昨年中に受け取っていましたが、2004年の初め、二泊三日で大連に旅行している内に、我が家には『比較文化研究』No.62が届いていて、研究所の安中事務所の廊下に八箱のダンボールが積まれていました。発送までの作業は肉体労働から始まります。

海に突き出した小さな半島に位置する大連はこれまでに訪問した中国のどの都市とも違って、適度な起伏と海に囲まれていることが日本人には馴染みやすい所になっているようです。(アメリカに住んでいた頃、無性に山を見たくなくなった事を思い出します。)でも大連の居心地の良さは日本的な気候風土に生まれ育った者の感じる事で、中国の圧倒的多数の人々にとっては、大連は少々エキゾチックに思えるところなのではないでしょうか。「文化、言語、宗教、人種を越えることが出来ることを示すのがこの学会のつとめ」だとしたら、自分が育てられた文化、言語、宗教、人種をどうすれば客観的に見られるようになるかが大きな課題となります。そんな事を考えながら来年度のシンポジウムの準備を始めたいと思います。

(太田敬雄)